

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

ああ苦学生 ネットニュースの表題：「1日1食か2食」貧困にあえぐ学生

どうもいつの世も学生は、基本的には貧乏学生が多い。基本学生には所得が無いのだから仕方がない。とは云っても金が無ければ生きられないのだから、バイトもやむなしのところかも。バイトは、社会体験と考えれば、それはそれでよい経験となろう。しかし、一方で昔の学生も貧乏していたが、夏休み・冬休み・春休みといったところでは、結構バイトをしていたが、授業のある日々にバイトをする人は少なかったように思う。それは、集団主義から個人主義への移行も関係か。

バイト学生

ある時期のOB会で、昭和30年迄と30年以上の生まれの人を10人づつ左右に分け、それぞれに質問した。「普段バイトをしている人？」30年までの人では、1人（おばさんの家に下宿、その家の子供の家庭教師）。30年以上生まれは全員バイトをしていた。30年以上生まれの人辺りから個人主義的となり、徐々に人間関係から遠ざかり、生活の独立性が高くなったのが原因か。その結果か、昼間は学校・夜バイト。今は少なくなったが昔の夜間学校では、昼間働き・夜は学校と、逆の状態である。どちらも苦学生に変わりはないが、学業の優先度はいかななものか。

学生生活スタイル

①寮生活 この生活形態は、全寮制や寮のある学校・クラブ活動などでの寮生活が挙げられる。ここで、1日1食は考えられない。何故なら全員が学生食堂で食べるからである。しかし、ここでは結構上級生との間での上下関係が厳しいケースが多い。また選択的に寮のある場合は多少緩和されるが、いずれにしても1人部屋は少なく合い部屋が多い。従って、個人の自由度は極めて少ない。

②下宿生活 親戚の家に下宿、近年親戚付き合いが少なくなり減少。家に間取りの余りや2～4部屋程度を貸して、食事付き。これも現在では少ない。1人部屋が多く、一定の自由度はあった。

③アパート・ルームマンションなど 現在ではこのケースが多い。基本的に食事は、自炊か外食または学校の食堂である。昭和30年位までの人は、2～5人位の仲間を形成して地元から通う人も含めて、互いにおごり助け合う関係にあり、部屋での酒盛り、麻雀が盛んであり自由度は程々。その後は、そんな人間関係が少なく、互いに助け合う関係もなくなった。あるのは自由度ですが何でも自己責任となり、バイトでもしなければ誰も助けや面倒を見てくれない。親との関係が悪ければ最悪となる。

自由度拡大には覚悟が

人間関係を少なくすれば、生活の自由度は拡大する。しかし、一方で何でも自己責任となり、その後の社会生活でも同様に、自由度拡大と自己責任は正比例。自己主張と協調は反比例である。



天竜浜名湖線沿線巡り

②掛川市 栄醤油醸造（醸造）

江戸時代1795年（寛政7年）創業の醤油醸造です。200年以上醤油醸造を受け継いで、丸大豆・小麦・塩を原料に、味・色・香りが特徴の醤油です。

「同窓会だより」掲載記事募集

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男
連絡先：〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402

FAX：(053) 489-6391

ironman29@hotmail.co.jp

「同窓会だより」は、八幡中学ホームページトップの「特色ある活動」から入ると、スマホやパソコンからでも見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。「同窓会だより」は毎月発行。

